

介護現場に好循環をもたらす 生活支援記録法 (第1回)

特別企画

埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授 **鳶末憲子**

日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了。大学病院(看護師)、訪問介護事業所(非常勤ホームヘルパー)、医療福祉系専門学校の教員などを経て現職。主な著書に『高齢期の生活と福祉』(山田知子編, 放送大学教育振興会, 2015年), 『介護導入テキスト Care Introductory Training』(国際厚生事業団, 2014年), 『技術と実践』(2014年度版介護職員初任者研修テキスト第4分冊, 介護労働安定センター, 2014年), 『介護・福祉の制度とコミュニケーション』(介護職員初任者研修テキスト第2巻, 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ) 連合会, 2014年), 他多数。



国際医療福祉大学 医療福祉学部 教授 **小嶋章吾**

東京立大学大学院社会科学研究科博士課程単位取得満期退学。医療ソーシャルワーカーを経て現職。主な著書に『社会福祉援助の共通基盤(上)』(第2版)(日本社会福祉士会編, 中央法規出版, 2009年), 『医療ソーシャルワーカーの力』(村上須賀子, 竹内一夫編著, 医学書院, 2012年), 『ソーシャルワーク記録』(副田あけみ, 小嶋章吾編著, 誠信書房, 2006年), 他多数。



生活支援記録法とは ～課題を解決し好循環を生む

支援経過記録が重要であることは、本誌2015年1・2月号の特集「新人スタッフに教えておきたい支援経過記録の書き方」のほか、多くのテキスト類などにより説明されています。

今号から3回にわたって、介護現場に好循環(利用者への多様な効果、やりがいや専門性の向上、チームケアによる労働環境への貢献など)を生む、「生活支援記録法」(以下、本文中においては本記録法)について紹介します。本記録法は、約1,000場面を超えるケアワーカーやケアマネジャーなどによる「生活場面面接ワークシート」を基に考案されました。

生活場面面接や、パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、学習療法などに取り組んでいる場合は、本記録法を用いることにより、さらにその効果が高まるでしょう。

◎理論に基づく実践を支える記録法

近年、生活モデルが重視され、ICF(国際生活機能分類)が多職種の共通言語となったことや地域包括ケアシステムが推進される中、利用者と長くかかわる介護職には、利用者の本音を引き出した

り、ケアプランと実態のズレに気づいたり、利用者の思いを代弁したりすることが、一層求められるようになりました。

本記録法は、このような背景を踏まえた、皆さんもよくご存じの理論(生活支援、ストレングスの視点、利用者中心主義など)に基づくものです。

◎生活支援記録法の定義と形式

例えば、多忙な中でいつも無言で入浴を拒否していた利用者が、声かけの工夫をした結果、笑顔でスムーズに入浴できた場面を、苦勞して支援経過記録に書いたことはありませんか。そのような支援経過記録が書きやすく、かつチームにおいて共有しやすくなり、記録や介護現場全体の課題解決にも貢献できる本記録法を紹介しましょう(表1)。

日々のケアを通じた利用者の状態変化や家族からの情報などについて時系列で記録する方法には、叙述形式と項目形式があります。表2に簡単な場面での叙述形式による記録例を示します。

もう一つの項目形式には、代表的なものとしてSOAP方式やフォーカスチャータリングがあります。ここでは、これらの内容説明は割愛しますが、それぞれデメリットがあります。本記録法は、これらのデメリットを克服していることも特徴です。具体的には、表3のように定めた項目別に分けて、

[表1] 生活支援記録法の定義

多職種協働によるチームケアにおいて、生活支援の観点から観察、支援の根拠、利用者とその環境との相互作用（働きかけと反応）、利用者の生活変化、これらを基にしたケアプラン反映への根拠などが明示可能な支援経過記録の方法である。

[表2] 叙述形式による記録例

日付	支援経過
〇/〇	「朝から何となく身体がだるい。夜も寝苦しかった」と言われる。食欲は普通だが表情が乏しい。風邪をひいたのかもしれないが判断できない。体温は36.0℃でいつもと変わらない。車いすでの買い物は、本人も乗り気ではなく中止とした。主治医に診察してもらった方がよいのではないかと勧めた。

叙述形式による記録は、熟読すれば記録された場面についての理解が深まるが、チームの情報共有のためには要点を把握しにくい。

利用者の状態や変化、ケア内容などを記述します。

本記録法の場合は、表2の例は、表4のように記すことができます。

利用者がどのような発言をしたのか、介護職員などが観察したこと、判断、その時行ったケア、その後のプランが明示されていることが分かります。例示は簡単な場面ですが、複雑な場면을叙述形式で記録すると、誰が何を話したのかさえ分からなくなることがあります。

生活支援記録法の特徴と効果

本記録法の特徴や効果は、これまでの実践への試行を通じ、表5のように整理できます。

生活支援記録法の記入方法

ここでは、手書きの記録用紙を用いて記載した本記録法の実際を紹介し、記入方法を解説します。IT化されている場合は、「F」「S」「P」などの

[表3] 生活支援記録法の項目

F：着眼点，ニーズ，気がかり
 S：主観的情報，利用者の言葉
 O：客観的情報，観察や他職種から得られた情報，反応
 A：アセスメント，気づき，判断
 I：援助者（記録者本人）の対応，声かけ
 P：計画，当面の対応予定

F (Focus), S (Subjective Data), O (Objective Data), A (Assessment), I (Intervention), P (Plan)

[表4] 生活支援記録法による記録例(表2と同じ場面)

日付/F	支援経過
〇/〇 外出 中止	S：朝から何となく身体がだるい。夜も寝苦しかった。 O：食欲は普通だが表情が乏しい。体温36.0℃。 A：風邪をひいたのかもしれないが判断できない。体温はいつもと変わらない。 I：①車いすでの買い物の意向を確認したところ、本人は乗り気ではなく中止とした。②主治医の診察を勧めた。 P：サービス提供責任者に報告する。

[表5] 生活支援記録法の特徴と効果

ケアプラン・記録	<ul style="list-style-type: none"> 労働環境、ケアワーカーなどの力量に合わせ、段階的な導入が可能です。 各アセスメントツールや支援経過記録様式に適用可能です。 モニタリングにつなげられ、ケアプラン変更に有効です。 →IT化により、さらに促進されます。 相互作用（働きかけ：観察・気づき・コミュニケーション／反応）を明示できます。
利用者・ケアの質	<ul style="list-style-type: none"> ストレングスや利用者の視点から、ケアを展開でき、根拠を明示できます。 利用者の生活や心身面などの変化に柔軟に対応できQOL向上を図れます。 長期間変化の見られない利用者の日常支援に効果ややりがいを見いだせるなど、ケアの向上に有効です。 保健医療福祉の主要な諸理論を踏まえた折衷的な記録法であるため、理論に基づく実践を実感できます。 パーソン・センタード・ケアなどの実践と併用することにより、さらに効果が高まります。
チームケア・労働環境	<ul style="list-style-type: none"> 多職種協働において、介護職やソーシャルワーカーなどの専門性を明示できます。 個人やチームでのリフレクション、OJTとしても有効です。 ケアプランへの反映による専門性向上ややりがいを生むことにより、労働環境への貢献もできます。

[表6] 2列の記録用紙を用いた場合

A	日付／F	支援経過
「F」は、記録内容が一目で分かるよう、日付欄を利用し、ニーズや気づきなどを一言で記載します。	7/31 無気力・ 反復動作 の意味	<p>繰り返される動作の意味が分からなかったが、娘さんが今朝面会に来た時、Nさんは昔、デパートの着物販売コーナーで働いておられたことが分かった。</p> <p>O：ゴムを抜き、トイレトペーパーで紐をつくり腰に巻くことを繰り返す。</p> <p>A：どんな生活歴と関係しているのか。着物の仕事と関係しているか確認が必要。</p> <p>I：「Nさん、昔、着物の仕事をなさっていたんですね。もしかしたら、帯をお探しですか？」</p> <p>S/O：「えっ？ そうだったかな。そうそう帯なのよ。私、昔、着物が好きだね」（表情が明るくなる）</p> <p>A：着物と関係している可能性がある。</p> <p>P：力を引き出す場面につなげたい。</p>
記載内容を分けがたい場合は、「S/O」のように、「/」を用いて一緒に書きます。		
記号(S, O, A, I, P)の採用や順番は柔軟に記載しましょう。		
B	日付／F	支援経過
⑥の「S/O」は、ケアによる変化・相互作用を示しています。	8/1 着物経験 の活用	<p>I：隣の利用者から着物姿のお孫さんの写真を借りて見せる。</p> <p>S/O：「まあ、きれいなお嬢さん！ この着物はね…」と、紐を結ぶ動作をするなどして思い出話が続き、表情も豊かになる。</p> <p>A：反復動作と着物の関係性について確認できた。写真からでも変化が見られたので、Nさんらしさを発揮できる場面を演出したい。</p> <p>P：①着物の雑誌などから、個人回想法を実施し、効果を確認する。 ②失敗しないような配慮が必要だが、夏祭りの時に職員の着付けをお願いしてみる。</p>
前日の「P」を基に意図的な支援「I」になっています。		

検索ができるため、本記録法をよりケアプランと連動させて活用することが容易であり、介護労働環境への貢献が実感できると思います。

表6は、日付欄と支援経過欄という2列の記録用紙を用いた場合です。

表7は、日付欄と支援経過欄に加えて、備考欄が設けられているような3列の記録用紙を用いた場合です。

3列の記録用紙を用いる場合、「A」を独立した欄に記載することができます。「A」の内容は、利用者・家族と必ずしも共有されていない場合がありますので、このように独立させて記載しておくとういでしょう。

生活支援記録法の留意点

本記録法を導入する場合、実施可能な人が、必要と思われる場面において、できる部分から着手するとよいでしょう。簡単な場面から試行していく方がやりやすいと思われませんが、慣れてきたら、

根拠あるケアを実践できた場面や、ケアプランの修正が必要と考えられる場面など、チームで共有したい場面に挑戦することをお勧めします。

【導入・場面の選定】

- 毎回の記録で本記録法を用いる必要はありません。本記録法の特徴や効果を踏まえ、意義があると思われる場面について活用するとよいでしょう。
- 本記録法を用いる場合でも、叙述体の記録と併用可能ですし、すべての項目を網羅する必要はありません。
- 部分的に、「S」や「F」「P」など記入しやすい項目のみから始め、状況に応じて記入項目を増やしていくことができます。
- ユニットの中で、一部の介護職員（SOAP方式の経験者など）から始めることで、ほかの介護職員がイメージできるようになります。叙述記録の中で、どれが「S」や「I」に当たるのかと考えることに慣れておくと、書きやすくなります。

[表7] 3列の記録用紙を用いた場合

日付／F	支援経過	備考 (A)
<p>○月○日 長男の 心配対応</p>	<p>居室訪問（長男の来所時） S長男：介護職員に対して、「毎月1泊2日のショートステイでは、母にとって落ち着かないのでは？」と心配そうに尋ねられた。 O：本人は満足していると、申し送りで聞いている。 S本人：間髪入れず、長男に向かって「(ショートステイは)大丈夫よ、(身体は)どこも悪くないわ」と、やや強い口調で言われた。 I：長男に対して、「ご自宅の介護は大変でしょう。Aさんはショートステイを利用される時は、ほかの利用者同士で話をしたり、レクリエーションも楽しんでおられますよ」と、ショートステイ中の様子について説明した。 S長男：「母の様子を聞いて安心しました。今後については、ケアマネジャーさんとも話し合ってみます」 P：長男とのやりとりを、ユニットリーダーに報告し、ケアマネジャーに報告してもらう。</p>	<p>長男の訴えからは、自分が母を見ていきたいが、そこから逃れたいというアンビバレントな気持ちが伝わってくる。 今後のショートステイ利用時のAさんの様子について、介護職員としてより詳細に把握しておく必要がある。</p>

「S」は、利用者の主観的情報を記載する項目ですが、利用者と家族が同席し利用者と同様にその発言が重要な場合には、家族も「S続柄:」として記載しても構いません。

()書きで、情報を補うこともできます。

会話体は「」書きにします。

「P」は、アセスメントに基づく根拠あるプランとなっています。

【各項目】

- 「F」：記録場面の内容を、一言で分かりやすく示すものです。内容をすべて読まなくても、「F」の項目を見ただけで分かるように、短い言葉で書いておきましょう。ケアプランと連動させるために、#など^{注)}を付記することもできます。
- 「S」：主観的情報として、利用者本人の訴えを記載する場合に用いますが、家族（キーパーソン）との面接時には、家族の訴えを「S続柄」として記載しても構いません。
- 2つの項目を分けがたい場合には、次のように記載しても構いません。

例1) S/O：臥床後コールあり。「起きられなくて」と。

例2) O：思うように頭が上がらず、(軽介助し)端座位となった。

※()書きの内容は「I」に相当するものですが、利用者の状態の変化と切り離すことができないため、あえて「I」とせず、「O」の中に()書きで表示しています。

例3) A/I：眠気がなさそうなので、フロアで会話をした。

- モニタリングとして、「F」や「P」をチェックすることにより、ケアプランの修正などに役立てることができます。

生活支援記録法の活用

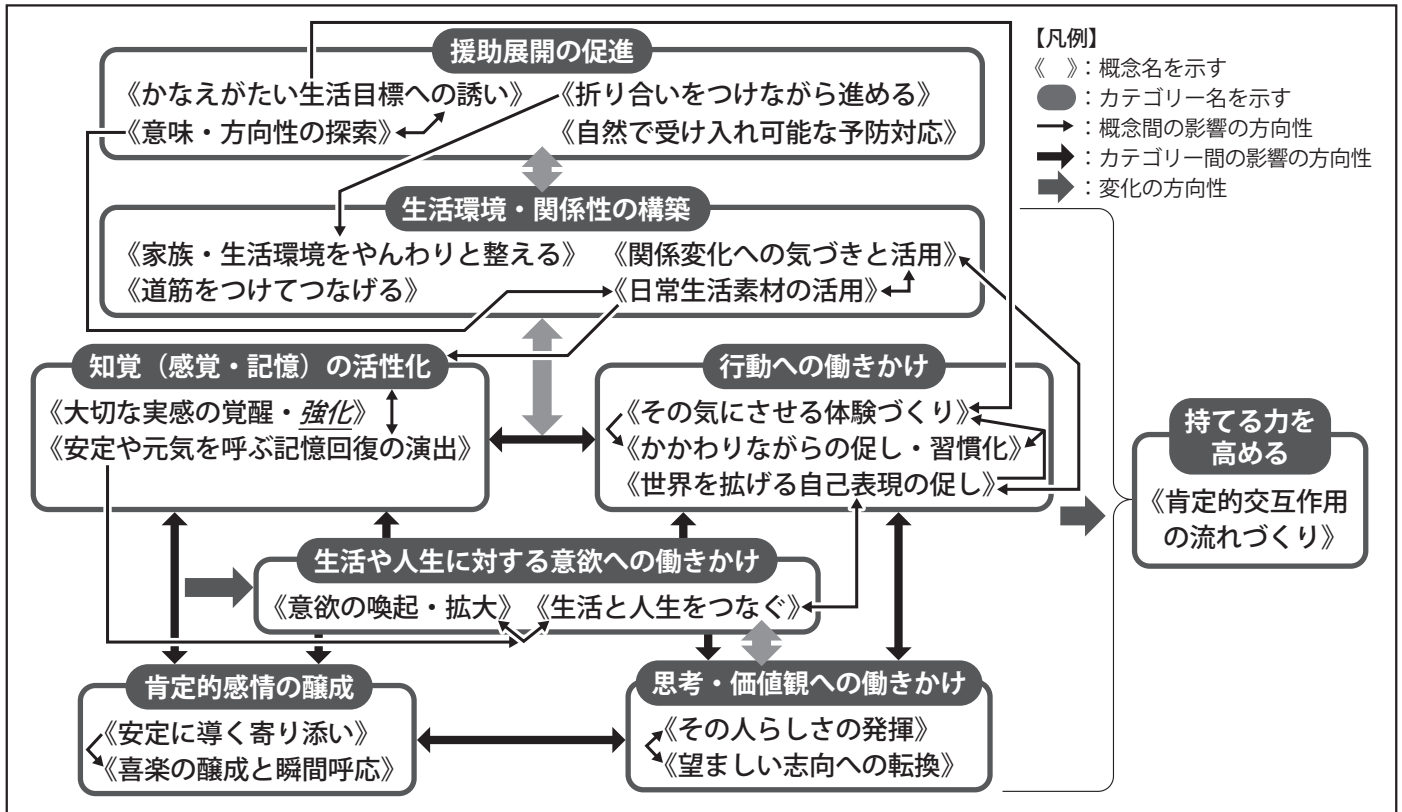
◎生活支援記録法を開発した理由

～生活場面面接を支援経過記録に表現するために
筆者は、長らくケアワーカーやソーシャルワーカーによる生活場面での利用者との意図的なコミュニケーションについて、実践的な研究に取り組んできました。それを生活場面面接として定義し(表8)、「利用者の持てる力を高める生活場面面接のプロセス」(図1)や、生活場面面接を意図的に活用するための「生活場面面接ワークシート」(表9)として、テキスト類にも公開してきました。このような中で、生活場面面接の意図的な実践を記録することが求められたことから、本記録法を開発するに至りました。なお、生活場面面接については第3回にて紹介する予定です。

◎先進的な認知症ケアの実践場面での活用への期待

本記録法は、必ずしも生活場面面接に特化して

【図1】 利用者の持てる力を高める生活場面面接のプロセスの結果図



【表8】 生活場面面接の定義

利用者の日常生活場面において、援助目標に沿い、利用者の多様な側面と、必要に応じて環境（生活環境、出来事、他者との関係）を活用した意図的なコミュニケーションをいう。

【表9】 生活場面面接ワークシート

周囲の状況	利用者の言動	援助者の思い	援助者の言動	意味づけ
ICF：状況・環境	ストレングス：利用者中心・ニーズ	アセスメント：気づき・判断 ※ケアしながらのリフレクション	生活場面面接の実践 ICF：相互作用 生活支援	実践後のリフレクション

活用するものではありません。冒頭にあるように、パーソン・センタード・ケアやユマニチュード、学習療法などに取り組んでいる場合は、介護職の観察・コミュニケーション、気づきをケアプランにつなげることなどが求められるため、本記録法を活用することが期待されます。

また、日々のケアにおいて生活場面面接が展開され、本記録法を活用することによって、相乗効果がもたらされると推察されます。さらに、介護プロフェッショナルキャリア職段位制度でも、支援経過記録の整備が前提となることから、本記録法が普及することが望まれます。

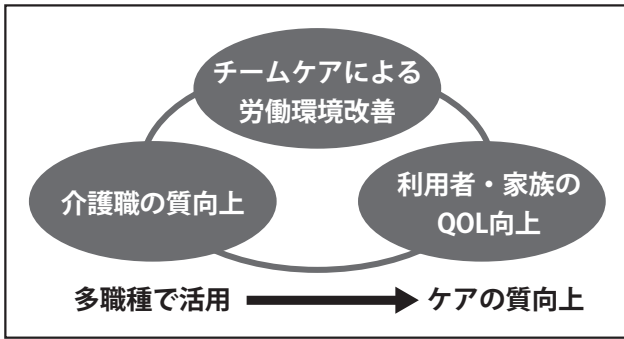
おわりに

今号では、本記録法の定義や特徴、記入方法などを解説してきました。これまでの研究成果から、本記録法が図2のように介護現場に好循環をもたらすことが把握されています。次号では、このような好循環が確認された特別養護老人ホーム（こうめの里）での実践事例を中心に紹介します。

謝辞

本稿は、科学研究費補助金（基盤研究C）「多職種協働に有用な高齢者福祉実践の向上を促進する「生活支援記録法」の開発と検証」（2011～2014）および、「地域包括ケア時代のソーシャルケア発信型IPWに好循環を生む生活支援記録法実証研究」（2015～）の研究成果の一部である。

【図2】生活支援記録法による介護現場での好循環



注) ケアプランの課題を#1, #2などと整理している場合の#を指します。

引用・参考文献

- 1) 寫末憲子, 小嶋章吾: 連載 生活場面面接を学ぶ, ホームヘルパー, No.443~445, 2013.
- 2) 寫末憲子, 小嶋章吾: 5 介護におけるコミュニケーション技術, 第1節 介護におけるコミュニケーションの技法,

介護職員関係養成研修テキスト作成委員会編: 人間と社会・介護2 (介護職員初任者研修テキスト), 長寿社会開発センター, 2014.

- 3) 小嶋章吾, 寫末憲子: 第6部 介護におけるコミュニケーション技術, 日本労働者協同組合 (ワーカーズコープ連合会)・日本高齢者生活協同組合連合会編: 介護・福祉制度とコミュニケーション (介護職員初任者研修テキスト第2巻), 日本労働者協同組合 (ワーカーズコープ連合会), 2014.
- 4) 小嶋章吾, 寫末憲子: M-GTAによる生活場面面接研究の応用~実践・研究・教育をつなぐ理論 (M-GTAモノグラフシリーズ1), ハーベスト社, 2015.
- 5) 小嶋章吾: 生活場面面接における観察と記録の方法, ソーシャルワーク研究, Vol.41, No.1, 2015.
- 6) 羽田野政治: “根拠”に基づく新しい認知症ケア, p.256, 中央法規出版, 2013.
- 7) 埼玉県立大学ホームページ
産学連携の研究テーマ「介護現場に好循環をもたらす人材養成の提案」
<http://www.spu.ac.jp/nocms/strawberry0008/25seeds/4-2.pdf> (2015年8月閲覧)

お知らせ



たくさんのご応募ありがとうございました。 **第1回 日総研 接遇大賞**

(通称: 高橋啓子接遇賞)

今年度の応募を締め切りました。選考・審査委員会による審査を経て、10月15日(木)にホームページ(www.nissoken.com)と、25の専門雑誌、日総研通信で発表します。表彰式&記念講演会は来年1月~4月、全国4~5カ所で開催いたします。ご期待ください。

次号予告

高齢者 安心安全ケア実践と記録

2015年 11・12月号 2015年11月20日予定

特集

安らかに旅立っていただく 看取りのケア実践

- 看取りケアに必要な 介護職と医療職の協働
特別養護老人ホーム みずべの苑 ケアマネジャー 尾宮 順治
統括マネジャー 橋本三保子
- 看取り期における 「痛み」「かゆみ」「不定愁訴」へのケア
看取りケアコミュニケーション講師 後閑愛実
- 安らかな看取りを実現する 家族との連携、社会資源の活用
一般社団法人日本看取り士会 代表理事 柴田久美子
- 看取り介護加算取得に向けた 体制構築・強化の取り組み
株式会社 ケアクオリティ 総合相談室長 櫻井知代

虐待を未然に防ぐ! 介護職の ストレスマネジメント

- 入所者への虐待に至る 介護職員の心理状況 危険な兆候の見極め
東海大学 健康科学部 社会福祉学科 講師 岩田香織
- ストレスを抱えてから 立ち直る力(レジリエンス)を高めるには
株式会社ニッソーネット テクニカルアドバイザー 青野桂子
- 虐待防止を念頭に入れた介護職員の ストレスマネジメントの取り組み
特別養護老人ホーム いつテラス 施設長 及川ゆりこ

リスクを見逃さない! 合併症がある高齢者の施設ケアプラン

- 高齢者特有の 合併症がある利用者の 施設ケアプラン作成のポイント
聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 介護福祉学科 准教授 野田由佳里
- 統合失調症と重症心疾患を 併発した利用者の 急変リスク回避に向けた 支援の実際
名古屋市立大学 保健福祉学部 社会福祉学科 助教 木下一雄
- 糖尿病と 神経障害(または腎症)を併発した 利用者の在宅復帰を 目指した取り組み
はまなこ介護老人保健施設 介護支援専門員 安形幸子
- 誤嚥性肺炎と 認知症を併発した利用者の 生活機能向上に向けた 多職種による支援の実際
株式会社ベネッセスタイルケア 認知症看護専門看護師 渡邊季代子